

No. 30

1994

12月1日発行

萩の郷

発行者
下市田区
発行責任者
下井武平
印刷
下市田・キタバヤシ印刷



文化祭り・敬老会

敬老会



高森音頭
(ステージ上の場面)



舞台発表 (尺八)



展示発表 (生花・書)

好天・盛会・内容豊富
よかった秋のイベント

秋の下市田区の一大行事である文化祭り敬老会が、去る十月十五日(十六日)に、公民館を会場に開催されました。

展示発表では二十二組、舞台発表では十五組十八種目が、日頃の研修の成果を競いました。又同時に行なわれた敬老会には、七十歳以上の五百三十名の方々に御招待申し上げ、約二百名近い御参加を頂き、盛会でした。その五百三十名の内訳は次の通りです。

卒寿以上十九名、米寿祝十名、喜寿祝三十名、その他の七十歳以上四百七十一名。

今年も幸いよい天候に恵まれて、敬老会に出席されたお年寄りの皆様、文化祭りに参加された区民の皆様、足場の心配もなく、無事に終了することが出来ました。天候については、平成三年から晴天続きであり、今年も亦下市田区全体の「おこないの好さ」が充分に証明され、御同慶の至りと思っております。

区民がお年寄りを中心に一堂に会し、常日頃のいろいろなことの研鑽成果を発表し、それらを観賞するというこの文化祭り、敬老会が、何時迄も続くことを祈るものであります。

平成6年度 下市田区一般会計前半期決算報告書

(自平成6年4月1日～至平成6年9月30日)

既収入金計 21,458,674円
 既支出金計 19,388,725円
 差引残高 2,069,949円

Ⅰ.【収入金の部】

項 目	予 算 額	既収入額	予算残額
1. 区 費	15,130,000	7,633,400	7,496,600
2. 繰 入 金	4,280,000	0	4,280,000
3. 町 支 出 金	6,500,000	8,225,818	△ 1,725,818
4. 財 産 収 入	1,465,000	105,000	1,360,000
5. 寄 付 金	1,300,000	229,263	1,070,737
6. 消 防 義 務 金	2,400,000	2,460,000	△ 60,000
7. 諸 収 入 金	2,300,000	143,561	2,156,439
8. 前 期 繰 越 金	2,500,000	2,661,632	△ 161,632
収入合計	35,875,000	21,458,674	14,416,326

Ⅱ.【支出金の部】

(単位 円)

項 目	予 算 額	既支出額	予算残額
1. 総 務 費	12,227,000	4,821,708	7,405,292
2. 厚 生 費	752,000	295,801	456,199
3. 林 務 費	866,000	427,669	438,331
4. 土 木 費	9,480,000	6,030,310	3,449,690
5. 水 利 費	5,115,000	5,648,050	△ 533,050
6. 消 防 費	3,030,000	1,195,187	1,834,813
7. 公 民 館 費	2,980,000	700,000	2,280,000
8. 予 備 費	1,425,000	270,000	1,155,000
支出合計	35,875,000	19,388,725	16,486,275

平成6年度 下市田公民館中間決算報告書

(自平成6年4月1日～至平成6年9月30日)

既 収 入 額 2,090,209円
 既 支 出 額 1,681,354円
 残 高 408,855円

収入の部

科 目	予 算 額	既収入額
繰 越 金	90,000	85,765
繰 入 金	2,980,000	1,200,000
補 助 金	900,000	804,000
雑 収 入	2,000	444
合 計	3,972,000	2,090,209

支出の部

(単位 円)

科 目	予 算 額	既支出額
総 務 費	1,850,000	652,128
教 養 部 費	1,154,000	565,495
体 育 部 費	583,000	178,495
視 聴 覚 部 費	248,000	201,104
図 書 部 費	107,000	84,132
予 備 費	30,000	0
合 計	3,972,000	1,681,354

区の情勢について

区長 下井武平

公共下水道については、黒沢下関係者の総会にて、代替地希望者については個々に話し合いを進める事の下解が得られ、現在用地委員が話し合いを進めています。広域農道については、遺跡調査が始まり、又間ヶ沢橋の橋脚工事が始まること

明神橋架け替えについては、去る十一月四日に県職員の内にて、対策委員他関係者が県内の三橋の現状を視察し、今後の対応の参考とする事になりました。中段土地改良については、間ヶ沢川以北の工事を神稲

委員会通信(その三)

●厚生委員会● 伊奈川 和人

建設が請負い、平成七年三月二十日迄の工期となりました。

平成七年度の町の振興計画の見直しが行なわれ、地区からの要望につき町と協議して決定しました。町の予算に依り不足な点もありますが、御理解と御協力をお願いいたします。

最後にりましたが、下市田区の監査委員、代議員他各委員、常会長、公民館三役及び部員の任期が参ります。二年間それぞれの役割を務められ、区の発展の為御尽力をいただき、誠に有難うございました。

厚く御礼申し上げます。

日頃厚生事業には、区の皆様方には大変お世話様に成ります。特に一般廃棄物の収集には、各ステーションの協力委員の皆様の御協力に深く感謝申し上げます。

厚生事業は、地域の公害防止と汚水排水対策等々、住み良い環境づくりの推進です。

今、社会問題にされ、自治団体の悩みのゴミ対策を重点に、只今ゴミの分別収集に取り組み中です。リサイクル出来る物を多くし、埋立ゴミを減量し、町の郊外の埋立新処理場の計画である十年を少しでも長くする為に、家電器具等を購入される際には、メーカーや

容器を○印スチール、△印アルミと区別し、時間を守ってお出し下さい。

家庭の備品器具等も変化し、ゴミも新時代になる様です。不明な点は委員も勉強します。

今後共御協力、御指導の程お願い申し上げます。

下市田河原を考える(その二)

三浦 喜久夫(三区)

昭和三十六年の大災害から三十余年、町内でも屈指の稲作地帯として受け継がれてきた下市田河原。この広大な水田地帯だったその4分の1は工業団地に、そして時代の流れと共に下水道計画ができるとその端末処理場もここに白羽の矢が向けられた。そのうえ国道153号線のバイパスとも思える農免道路計画も進められ下市田河原の田園風景は次第にその陰が薄くなっていくような気がする。

中間世代の役割と思う。下市田河原を考える会では先に地権者全員に対してのアンケート調査を行った。その集計をこの紙面をお借りして報告したい。

* *

今回の回収率は40%と少々低かった。回答者の年齢では50代35%、60代30%、40代20%、30代10%となっている。

73%が自作、20%は貸しっており、残りは無回答であった。

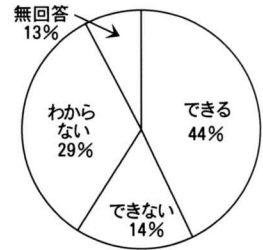
作付けについては63%が米をつくっており、野菜、果樹、飼料の順になっている。

回答者の68%は自分で管理している、16%は父母又は祖父母に任せている、であった。残りは無回答。(任せている16%の全部は30歳から40歳代で、30歳から40歳代の回答者の半数にあたる。)

我々の世代に受け継いだこの河原、後世にどう伝えていったらいいのだろうか。

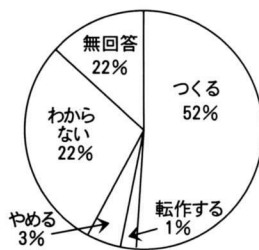
ここには米をつくる環境がある。米をつくり続けられるこの環境を残して次の世代に送りつなげるのが我々

あった。



今の上で維持管理が出来ますか。

将来米をつくり続けるかに対し、52%はつくる、転作する1%、やめる3%、わからない・無回答44%。



将来米をつくり続けますか。

前記二問の、できない、やめるの人のうち半数は農地として残す、半数は宅地に転用する、と答えている。

農免道路が必要か否かに対して37%は必要、47%は不要、わからない・無回答16%であった。

自分の土地のそばに道路があいた場合45%は水田として管理する、やめる又は用途転換が19%、貸す3%、売る10%、その他4%、無回答19%であった。

代議員会だより

夢の小豆島を訪ねて

訪ねて

代議員に、区と公民館三役、二十一名の研修旅行は、十月五・六日の二日間、小豆島めぐりを行った。フェリーで瀬戸の島々をめぐって二時間、小豆島は夕日をあびて美しく浮かんでいた。宿へ向かうバスが岬をまがるたびに、ワァーと歓声が

将来河原がどうあったらよいかに対し、水田又は農地として残す50%、商業用地に転換する13%、宅地化5%、公園にする4%、用途別にゾーンを設定し分割利用する15%、個々バラバラでよい2%、わからない・無回答11%という結果だった。

今回のアンケート調査で設問が充分検討されて行わなかった事もありデータとしては不十分であるところが多い。しかしこれを機に皆で将来自分の住む所として本気に考えていきたいと思う。

アンケートにご協力下さった皆様にこの紙面をお借りしてお礼申し上げます。

上がり、いつの間にか誰かが唄い始めた「瀬戸は日暮れて……」に合せて大合唱となっていた。

露天風呂から暮れなずむ瀬戸を眺めた想い出をあとに、翌日は「二十四の瞳」でおなじみの岬の分教場を訪ね、大石先生や子供達と、年代的に過ぎて来た自分達とをだぶらせながら、四十二の瞳はしばし、感慨にふけるのであった。

一区代議員
北沢貞男

萩山神社

宝刀について

区長 下井武平

下市田区報第二十九号にて簡単にお知らせしましたが、其の後の経過についてご報告致します。西沢仁志弁護士と相談の結果、同氏を代理人に委任、平成六年十月十一日付にて当時の宝



刀預かり人に対し「公開質問状」を送りました。これに対して預かり人は、川島慶一弁護士を代理人として、十月二十日付にて、西沢弁護士宛に回答があり、審議委員会にてその回答を詳細に検討した結果、再度西沢弁護士に相談して今後の方針を決めることになりました。従って其の結論は改めて区報にてご報告することといたします。



下市田区 第12回 カラオケ大会

下市田区・公民館共催による第十二回カラオケ大会が、去る九月二十四日(土)に下市田公民館に於て、行なわれました。各代表の方々の熱唱に加え、今回は、浦安の舞の練習成果の発表があり、今迄と違ったカラオケ大会となりました。

☆カラオケ大賞
男と女の破片
松沢正明……三区代表
☆歌唱賞
酔っぱらっちゃった
池野照美……二区代表
☆努力賞
木曾路の女
久保敷かよ子……五区代表
☆熱演賞
ランナウェイ
参青会

カラオケ大会に 出場して

松沢正昭

今回、なぜか私が、カラオケ大会に出場する事になり、とにかく頑張ろうと思いい、参加する事にしました。控室では、各委員の人達が、当日？練習に励んだり、参青会の若い人達は、衣装の準備をしたり、大変にぎやかな舞台裏でした。

各区の応援の人達が、それぞれの形で集まり、すでに盛大に盛りあがっている人等で、いよいよ本番。各代表の方々の熱演等でステージの進行も順調に進み、いよいよ私の番です。でも「男と女の破片」の歌の代りに、「もみじ」が出てきたのに、少しビック



熱演賞 参青会

三浦伊佐夫

カラオケ大会に 出場して

久保敷かよ子



定年を過ぎて何年になるか、忘れる程になった今、カラオケ大会五区代表で出るなんて何と言う事か、武陵地一常会が当番と言う部落長さんのお言葉、常会の若い方々にお願ひしましたけれど、私のお願いの仕方

が良かったのか、誰も出て下さる方はなく、一人暮らしの私は援助してくれる人もなく、常会長という役に仕方なく恥をさらす破目になってしまいました。子供や孫の様な方の中に混じり、楽しむ筈の大会が食も喉に通らず、心臓がおどって口が渴くばかり。係の方が、お茶を持って来て下さって、どうにか唄う事が出来ました。ありがとうございます。

努力賞なんて尊い賞も頂き、それに、お花など沢山頂き、応援に来て下さった方々に心から感謝申し上げます。



区報 編集委員会の 研修旅行

区報「秋の郷」も三十号を迎える事が出来、これまで区報の編集に携って来られた先輩の皆様方に感謝すると共に、今後も区民の方々から待ち望まれるような充実した紙面作りに取り組んで参りたいと思います。

区報編集委員会では、十月十日京都へ研修旅行に行つて来ました。太秦を中心に古寺巡りをし、有意義な一日を過ごすことができました。



下市田区の敬老会に招かれて

下市田区の敬老会に招かれて

三区 小川 勇次

下市田の敬老会に招かれ
区民の皆さんから喜寿の御
祝を戴き大変嬉しく思いま
す。私達より高齢の方々
がまだまだ元気で居ます。

私も自分の立場をよく理
解し常に健康に留意を計り
先輩の方々に負けない様に
元気で町や区の行事に進ん
で参加して、御世話になっ
た御礼をしたいと思います。



喜寿受賞の小川勇次氏

今回事長さん、公民館
長さん始め各種団体の
方々の活躍で昔懐かしい思
い出の唄や踊りを見せて
もらい楽しい思い出とな
りました。
やっぱり元気でよかつ
たなあと思ひ、区の方々
に厚く御礼申し上げます。
皆様も御元気でやって
下さい。



卒寿以上のお祝いを
受付けている所
写真は岩崎ツネヨさん

下市田区の敬老会に招かれて

一区 長谷川 利三

秋^{あき}の十月十六日恒例の
下市田区の発表会と敬老会
に妻と出席させて頂きまし
た。手配の車で順次に会場
へ着き、菓子を貰ひ御茶の
接待や階上の展示を見物し
たが、遅く着いた人はその
余裕はない様でした。式次
第は例年の通り主催者挨拶、
来賓代表・町長祝辞で始ま
り、喜寿・米寿と卒寿以上
の方々の表彰と謝辞が有り、
待ちかねた舞台の発表会に
移ると共に、区の心尽しの
酒肴の接待を受け乍ら、二
十番近い種目を和気あいな
いの内に終了し、日頃出不
精の老人には楽しい変化に
富んだ一日でした。
この催しには、公民館は
展示と発表会で、区は敬老
会との話の由。双方同時に
開催して多数参加して立派
な文化祭と思う。発表会は、
練習の成果を遺憾なく発揮
され、殊に婦人は、化粧を
して揃いの衣裳で舞台に出
ると見違える程美しい芸を
披露したのは驚いた。
又階上の書は、草書行書
で楷書は少ない。画は洋画
の風景の大作で、日本画は
稀であった。他の陶芸、生
花、編物等は時間が無く唯
見るだけで作者には申し訳
ないが女性の方には大いに
持てた様で有った。毎日多
忙の中、寸暇を得ての精進
が作品に表現され全く頭が
下がると共に自己の無能が
恥ずかしい。
終りに文化祭を企画され、

文化祭

教養部

十月十五日(土)・十六日(日)
の両日下市田公民館に於い
て区の文化祭・敬老会が開
催されました。

展示会場には、書道・生
花・陶芸・絵画・水墨画・
編物・手芸・盆栽等が会場
を飾り、訪れた区民は作品
の前で足を止め、日頃の努
力を誇り、素晴らしい出来映
えに見入っていました。例
年、反省点として、せっか
くの展示をより多くの方に
見ていただきたいというこ
とで検討していますが、事
前に作品の解説を流すなど
のPRをし、親しみのある
文化祭になればと考えてお
ります。

敬老会の式
典では、喜寿・
米寿・卒寿の
皆様五十九名

当日老人の為
に親切に奉仕
された方々に
対し厚く御礼
を申し上げます。
健康にて
来年も出席し
たいと思う。
盲言多謝。



敬老会招待の受付場面

一区小運動会及び芸能祭

一区主事 吉沢清美

一区では十月九日南小グランドにて小運動会を行い、好天に恵まれ七三〇人と参加者も多く、乳園児競技の風船ひろい、採点種目、各常会対抗では二十チームが参加し、縄結び競争、ウォータリーレー、ボーリング、レー、血圧測

定、綱引き等で、特に各応援席より大歓声を浴び、採

けの芸達者の方もおり、趣向を凝らした出し物で大盛況で終わりました。関係各位の皆様方には、前日の準備又後片付けまで大変ご苦労様でした。



小運動会の一場面

地域の紹介

二区会館の完成

二区主事 松島信幸

今年度最大のできごととは新しい二区会館の完成です。今までなれ親しんできた秋葉様の辻の会館は町の都市計画による朝霧道路で移転新築されることになりました。二区は一二一戸、下市田区では小さい方です。新会館建設となれば一戸あたりの負担額が相当です。建設にふみ切るまでには何回も会合を重ねて苦慮しました。最終的には全区民による集会を五年二月二十二



納涼祭 新会館で

新会館の位置は地主さんの好意で下市田河原を見渡せる丘の上となり、二区発展の新拠点として実にすばらしい場所といえます。六年五月七日は待望の落成式となりました。地区出身のS設計により、周囲の自然景観と調和した和風のたたずまいが落ちついた雰囲気をもたせ、関係者の喜びもひとしおでした。七月十六日は二区恒例の夏祭りが新装の会館で開催され、新会館の内外を楽しみ、飛びはねている子供たちの姿が印象的でした。

中村国子(六区)

すばらしい自然をもったこの高森町に移り住んで、もうすぐ一年になります。公園の多さにはとても驚きました。休日には子供達と自然の中で、澄んだ空気を体いっぱい吸い込んで楽しんでおります。

先日、たった一本ですが自宅にある柿の実をとり、家族全員で干柿作りをしました。等間隔につるされた柿は、わずか二列ですが、その仕事の大変さと、自分

ようこそ下市田へ

三島千尋(五区)

十年も前になりますが、母の病氣平癒の御願いで、日限地蔵様をお参りするようになりました。あの頃はただ、「母を助きたい。」それだけでお参りしておりましたが、縁があったのだと思います。そんな頃、家を建築するについて、どこかに土地はないかと、豊丘はもちろん高森も山吹、吉田、上市田から天竜川端まで見てまわり、二年間して現在の所に辿りつきました。こ



こと決めた後、これはなかなか決まらない土地を氣にかけて、お地蔵様が、ここへ呼んでくれたのだらうと感じました。たぶんそうだろうと、今も思ってお参りしておりますが、どこの御宅にもそれぞれ、いろんな事情がある通り、私の所もその例にもれず、この地で一戸の家族として生活を始めて二年半が過ぎました。しかしいまだに、流動的でいつ分解してしまうかわからないような状態です。この頃やっと少しばかり木を植えました。いつになったら庭木となるか位の物ですが、庭木となるころには、私共も、ごく普通の家庭になっ



達で作る楽しさを子供と共に実感しました。ちょっと外へ出ると、周りの家々にたくさんの方の列の柿すだれが出来上がっており、その美しさと量に圧倒され、しばし車を止めて眺めるのころです。果物や、自然から四季の移り変わりがはつきりわかるこの伊那谷は、とてもすばらしい土地だと思います。私自身は、この町で育ちましたので、同級生もいますが、高森を離れて十七年ぶりに戻って来て、PTAや保護者会を通じ、地域の方々とともに徐々

地域探訪

下市田の石碑と

石造物(その四)

田口正幸

今までに江戸時代の庶民の生活や信仰に関係の深かった庚申塔・秋葉塔・金毘羅塔・馬頭観世音碑・蚕玉様の碑・十王の石像・道祖神碑・天満宮碑・筆塚の碑・地藏様像など書きましたが、今回は廻国巡拝塔・宝篋印塔・惣兵衛供養碑のほか、萩山神社東の林の中にある数基の石碑を簡単に紹介して「下市田の石碑と石造物」を終わります。

廻国巡拝塔(回國巡礼塔) その記念として廻国巡拝塔を建てて供養しました。江戸時代には、お観音様を拜むと私たちの願い事を聞いてくださるといっての信仰があった。有志で仲間をつくり霊場巡拝が盛んに行なわれ、観音様の功德を得ようとした。そして、巡拝が無事終わると、



廻国巡拝塔

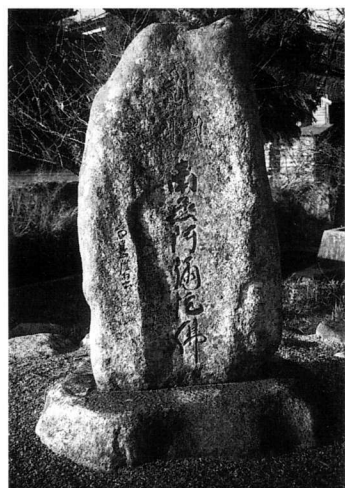
左は一石三十三観音塔(五区・新井原)
・高さ120cm。安政7年(1860年)建立。
右は秩父、西国、坂東百箇所順礼供養碑

(四区・清水庵)

・高さ122cm。元禄11年(1698年)建立。

清水庵(四区)の秩父西国坂東百箇所順礼供養碑は町内で最も古いもので、新井原(五区)の一石三十三観音塔(浮彫)も同じ巡拝供養碑と

安養寺の墓地のほ



惣兵衛供養碑

・二区(共北東)旧惣兵衛堤防入口にある。
・嘉永7年(1854年)建立。
・高さ160cm
・裏面に「為 総兵衛」と彫ってある。

お金もあり、その上家族の理解と協力があつたものと思いま

す。

宝篋印塔はもともと経典を供養して建てた塔で、これを礼拝すると、今までの罪悪は直ぐ消え、いろいろの災害からも免れ、死後冥土へ行っても極楽へ行けて、早く人間に生れ代わるといふ信仰がありまし

た。後の世になつて、

国の弘法大師の霊場八十八所(四国の札所)などで、後になって、これらの霊場は遠いので伊那に移して伊那三十三所ができました。町史によれば、西国三十三所と四国八十八所の霊場巡拝に百日以上の旅をして無事帰った日記が残っています。体力と健康に恵ま

れ、お金もあり、その上家族の理解と協力があつたものと思いま

す。

宝篋印塔はもともと経典を供養して建てた塔で、これを礼拝すると、今までの罪悪は直ぐ消え、いろいろの災害からも免れ、死後冥土へ行っても極楽へ行けて、早く人間に生れ代わるといふ信仰がありまし



宝篋印塔

左は安養寺墓地内にある。高さ101cm。
・建立年代は室町時代と推定。
右は小川三吉氏墓地(三区)にある。
・高さ124cm。
・建立年代は江戸時代前期(寛永)。

墓塔や死者の霊の供養塔として建つようになり小川三吉氏の墓地(三区)に古い宝篋印塔があります。

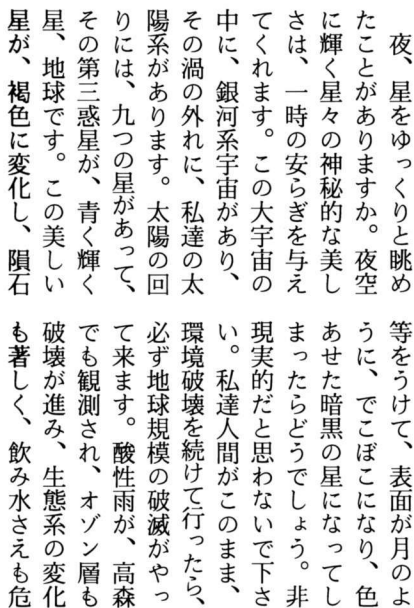
防(惣兵衛川除)と呼んで功績を讃え、百年ほど後の嘉永七年(一八五四年)に供養碑を建ててその菩提を弔いました。完成により下市田・座光寺・上郷の開田面積は二五〇ヘクタールと

暴れた竜の水害を防ぎ、下市田・座光寺・上郷の水田開発のため、飯田藩が下市田に大川除の建設を計画したのは寛政

萩山神社の社叢(お宮の森)の中には忠魂碑・復興記念碑の大石碑のほか、小川昌成先生頌徳碑(小川先生は松本生れで下市田学校の校長として明治二十八年から大正四年まで十六年余

光沢金治君追悼碑(伊那果友会、昭和三十九年建立)、高森分校統合閉校記念碑(ここに我ら働きつつ学びぬ、昭和五十年建立)など

四区 小島和子



險になって来ました。地球の温暖化が進めば、二十一世紀の世界は、すべてがおかしくなっています、生命のあるものすべてが大変な事になってしまいかもしれません。人間の、みにくい欲望はここらでストップさせて、本気になって、地球と仲良く生きていくことを考え直そうではありませんか。

二区 竹沢正穂

長野県は山梨県に続いて全国で二番目に住んでみたい県だと、何かのアンケート調査に出ていた事が記憶ます。

にあります。特に高森町は県の南部に位置し豊かな風土と歴史があり、人情味あふれた住み良い町で、特に下市田区は温暖で、市田柿の発祥地として、又カヌー

この様な地域でも時代の変化や要請により工業や商業化が進み都市近郊の傾向が強くなり、生活様式も多様多岐に亘り住民の間人間関係や連帯感が希薄にな

りつつあり、この様な混住社会でのなかで、より良い地域づくりに、各地区では、コミュニティ活動に努力しています。

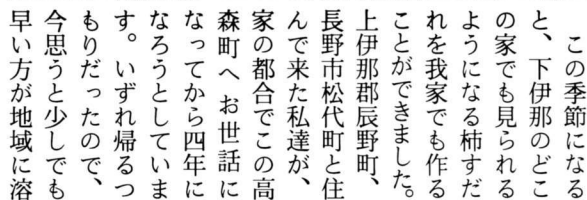
自分達の集落を良くするには、自分達で作らなければなりません。

人は一人では生きていられない。高齢化時代に入りなおの事である。それには家庭を基に隣近所との交流と親睦から始まり、輪を広げ、問題があればその地

研修会・行事等に積極的に参加して、知識を広め、勉強し合って互いに理解し、住んでいる地域が今後より発展し続け、子や孫に、引き継ぎできれば幸いです。

地域に溶け込んで四年

五区 林 美智子



け込むことができなかったと思います。小さい子供を抱え、はじめのうちは知り合いも少なく心細かったのですが、御近所の方々・隣組・常会・五区・若妻会・また子供の検診や公園で知り合った方など、一人二人と顔見知りの方が増え、エコープなどで偶然行き会い話ができるようになりました。子供が保育園へ行くようになったらとまた世界が広がりました。このようにこれから、子供の成長と共に知り合う人も増え、いろいろな関わりを持って生活して行くだと思います。引越して来た頃は、ゴミの出し方や、行事が多い事など不満もありましたが、町内めぐりややすらぎ荘、福祉バスの、乳幼児検診など福祉の充実を大変感じています。また多くの子供達が歩いて保育園へ通う事ができる環境もとてもよいと思います。今までお世話になった方々ありがとうございました。そしてこれからもよろしくお願いします。私達の高森町がより住みやすい町となりますようにと願うこの頃です。



小中学生の作文

ぼくの日記

小二木下 勝(三区)

十月二十四日

今日、兄ちゃんとすもうをした。

「はっけよい、のこった。」
「どすどす。」

とっても大きな音だった。それでぼくは、一回しかかてなかった。くやしかった。でも、またやりたいなと思った。

十月二十五日

今日は、国語の「お手紙」のところの書きとりをしました。

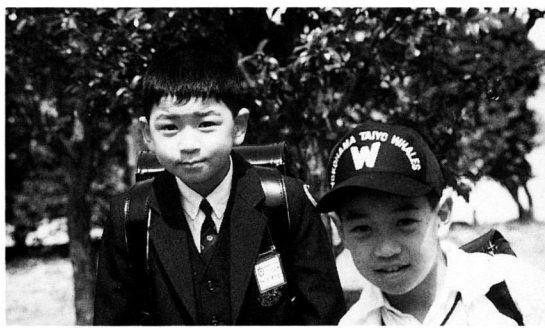
ぜんぶ書くのに時間がかかりました。学校でかいてもおわらなくて、うちでかいたら、ノートがおわってしまいました。それで、かってきて、それをつかいました。とちゅうで、おふろにはいつてきて、またかきとりをやっていたら、だんだんねむくなってきました。

十一月九日

今日、ダイズとりでつかれました。手足ががたがたです。

十一月十日

今日、体いくの時間に、サッカーをしました。ぜんぶのしあいが、ひきわけでした。三かいて、一しあいがじゃけんできめました。こんどはかちたいです。



左が勝君

家の愛犬

小六大島隆寛(六区)

ぼくの家には、「ペコ」と言う名前の犬がいる。ぼくが、小一の時にもらった犬です。もらってきた時は、小さくておとなしい犬でした。その時は、気が小さくて、ネコがきてもおっぴらつたりしませんでした。

その上、高所恐怖症なので、高い所にのせると、すぐにふるえてしまうほどでした。かわいそうなので、すぐ

ホームステイに行ってきた

中二山田達朗(二区)

僕は、今年の夏アメリカのバージニア州へホームステイに行ってきました。そして、いろいろな体験をしてきました。

七月二十七日の第一日目の朝は、不安でいっぱいでした。でも、ホストのお母さんが、僕の部屋に来て「Good morning Tatsuro」という、とてもさわやかな声で、僕にあいさつをしてくれたし、家族のみんなも笑顔で、あいさつをしてく

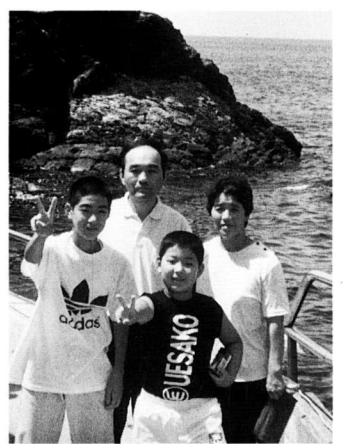
遠くから「ペコ」とよんでからかくれると、ペコはキョロキョロしておもしろいので、なんかいもよんであそびました。

オシッコの時は、前足で戸をひかくので、すぐわかります。でも、うるさいのです。これはおこります。でも、すぐ行ってやるので、ペコはうれしがっていきま

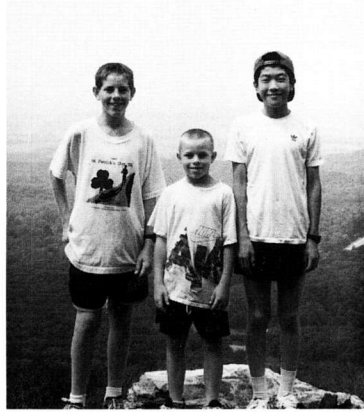
す。そして、ガマンしています。

楽しいアメリカの一日目が始まりまし

しかし、次の日の二十八日の朝、僕が起きてくると、なんだかみんな静かで元気がない様



前が隆寛君



右が達朗君

ホストから「私の祖父が倒れてしまった。」と言うことを聞いたので、急いでおじいさんの家に行きました。でも、彼のおじいさんは、亡くなってしまいました。僕は一回もおじいさんと話しができなかったの、とても残念でなりませんでした。

この様な、悲しい出来事もあったけど、ワシントンD.C.へ見学に行ったり、キャンプをしたりとても楽しかったです。そして、一ヶ月間お世話になった人達にとても感謝しています。

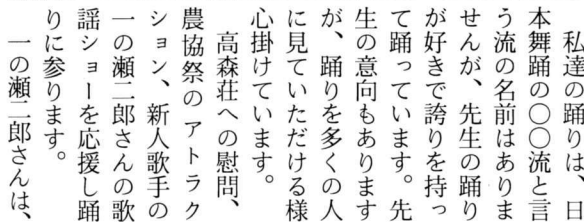
つぼみ会

下
沢
統
子

下市田区の事業には「つばみ会」の名前（保盛部は十名）で、毎月二回、第一と第三の金曜日の夜七時半から十時まで練

で参加させていただいていますが、町の事業への参加や他の活動は「保盛部」の名前で出ています。

つばみ会は、六年前に保盛部に入り解散しましたが、下市田区の事業に参加する場合に困り（他の町や区の方がいたため）、一年前に民館で発表会があります。



私達が踊っています「天竜あばれ川」を歌っている歌手で、さわやかな好青年です。新曲「竹とんぼ」「泥だらけの純情」ができました。応援してあげて下さい。

来春二月十一日鼎公民館で歌謡ショーがある予定です。私達も踊りの応援に参りますぜひ見に来て下さい。

ボランティア

ボランティア萩の会は平成元年四月発足致しました。三区の五十代から七十代まで巾広い年代層の有志の方達で構成されて居ります。一年間の主な事業は、年二回七十七歳以上のお年寄り、六十五歳以上の一人暮らしの方達をお招きしてのおたのしみ交流会、やすらぎ荘への付き添い、センチナリアンへ二・三回のお手伝いなどをさせていただいております。又必要に応じてその都度対応させていただいております。無理をしないように長続き出来る会であるようにと心掛けて居ります。

・この会も始まった頃は人数も少なく、花いっぱい運動、地下歩道の壁へ小学生が壁画を書く時のお手伝い

仲平よし子

踊りを通して地域の皆さんとのコミュニケーションができ、地域の発展に少しでもお役に立てれば幸いです。

私達のこの楽しい、心身共に健康を保っていただける会が、いつまでも続く様努力し頑張っていきたいと思ひます。

で行いました。紙芝居、お話、手遊びなどで楽しいひとときを過ごしていただきました。秋には保育園の子供さん達をお招きして楽しいふれあいが出来ました。

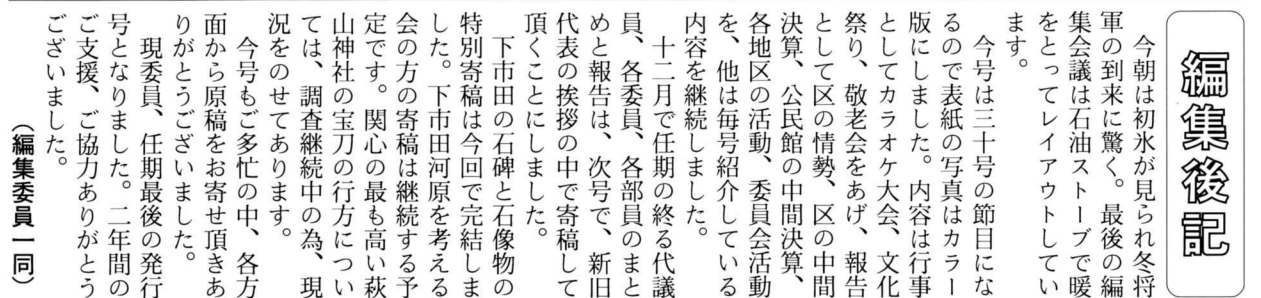
ふだん外に出られない方もみんなと顔を会わすことが出来てほんとうにうれしかったと言ってくださると、

少しでもお役にたったなら
又この次にも何とかしてあ
げようという気持ちになり
ます。

私達も今にお世話になる身です。出来るうちに少しでもお役に立てればと思つて居ります。

この会の主旨をご理解いただいて、後に続いてきてくださる会員のあることを希望して居ります。

などもやって来ました。現在では人数も二十四名になりました。春のおたのしみ会はボランティアが朝早くからおにぎりなど作り、バスで外へ出ましたが、天候の心配、バスの都合など大変でしたが、今年は力行会館も新しくなったのでここ



編集後記

今朝は初氷が見られ冬將軍の到来に驚く。最後の編集会議は石油ストーブで暖をとってレイアウトしています。

今号は三十号の節目になるので表紙の写真はカラー版にしました。内容は行事としてカラオケ大会、文化祭り、敬老会をあげ、報告として区的情勢、区の間決算、公民館の中間決算、各地区の活動、委員会活動を、他は毎号紹介している内容を継続しました。

十二月で任期の終る代議員、各委員、各部員のまとめと報告は、次号で、新旧代表の挨拶の中で寄稿して頂くことにしました。

下市田の石碑と石像物の特別寄稿は今回で完結しました。下市田河原を考える会の方の寄稿は継続する予定です。関心の最も高い葎山神社の宝刀の行方については、調査継続中の為、現況をのせてあります。

今号もご多忙の中、各方面から原稿をお寄せ頂きありがとうございます。ありがとうございました。

現委員、任期最後の発行号となりました。二年間のご支援、ご協力ありがとうございました。

(編集委員一同)

お談

今更事より已報り中

四ツシカス人賣の桐の松沢正明の明を昭に訂正

三役目やき事にはこの代表がアリ

五ツシの中段やき事の証明

受付ける所へ付しと消し下る